

公益社団法人 私立大学情報教育協会
平成26年度第4回事業普及委員会議事概要

I. 日時 平成27年1月23日(金) 14:30~16:30
場所 アルカディア市ヶ谷(東京、私学会館)

II. 出席者 今泉委員長、木村委員、高橋委員、宮脇委員 (事務局 井端事務局長、平田職員)

III. 検討事項

今回は機関誌2014年度No.4(3月号)の原稿確認を行った他、2015年度の企画を行った。

1. 機関誌2014年度No.4(3月号)の原稿確認

(1) 巻頭言

9段落目の「それに対して、スライドをプロジェクターを使って教室の前のスクリーンに映しだす」は、「スライドを」と「プロジェクターを」で「を」が重複するため「スライドを」移動し、「スクリーンにスライドを写しだす」に変更する旨、筆者に了承を得ることとした。

(2) 特集「サイバー攻撃防衛のための取り組み」

①「サイバー攻撃の情報共有活動とその成果」独立行政法人情報処理推進機構(IPAI)

- ・「1. はじめに」で『やりとり型』標的型サイバー攻撃の手口の説明・・・の前に、やりとり型以外の攻撃についても簡単に紹介してもらうよう依頼する。
- ・「4. 大学間情報共有の可能性」を情報共有の「必要性」または「重要性」に修正する。また、2段落目に大学を標的としたサイバー攻撃が実際どの程度あるのかわからない旨が記述されており、実際に被害にあっていることを示すため、事例を新聞記事から紹介することにし、事例の大学には承諾を得る。

②「メール添付ファイルによる攻撃の防御訓練実践例」 広島県庁

- ・「1. ウィルス換算の経緯」「2. 技術的対策」「3. 人的対策」となっている章立ての順序と章のタイトルを変更することにし、原稿の趣旨である人的対策を前に移動して「2. 防御訓練対策」とする。また、技術的対策を「3. 限界のある技術対策」とし、小見出し「(3) 業者によるセキュリティサポートの導入」を図中の用語から活用して「(3) 脅威の可視化」に変更する。
- ・被害の状況を示した時系列は文章ではわかりにくいので表にしたものを「1.」に挿入し、図6の訓練参加者のアンケート結果は削除する。また、各種研修での啓発内容の図を「2.」の「(2) 各種研修での啓発」に挿入して視覚化する。

(3) 人材育成のための授業紹介

①「文理融合学部におけるデータサイエンス教育～少人数アクティブ・ラーニングとICT活用の試み～」

概要の紹介にとどまり、具体的な実践内容が紹介されていないため、実践内容を中心に執筆いただくよう追記と再構成を依頼する。

②「立教大学社会情報教育研究センターが提供する活用力育成を意識した統計教育」

- ・タイトルを「データ活用力育成を意識した統計教育」にする。

- ・内容は全般的に社会情報教育研究センターの活動中心になっているので、統計教育の教育事例に絞った内容に加筆修正してもらう。

(4) 教育・学修支援の取り組み

- ・「2. ICT環境の運営について」「3. 学内ICT環境について」を統合し、メディア教育・研究センターの説明や、PC教室など施設面の紹介など重複部分を整理する。
- ・「5. 今後の課題と展望」の最後の2つの段落でeラーニング導入、TEDプレゼンテーション活用、ワークショップの実施、PDCAサイクルの実践などは実践事例なので、前の章で具体的に紹介する。

2. 2015年度の企画

企画を行う前に、2015年度からは2号分の企画を決めておくことを確認し、以下のように依頼先や特集テーマについて検討した。

(1) 巻頭言の依頼先

依頼先を北海道、東北、東海、中国の大学など、地域のバランスを考慮して依頼する。

(2) 特集のテーマ

No.1は「反転授業の実践事例」とし単なるオンライン学修ではなく、授業で議論や思考を深める取り組みを実践している例を中心とする。No.2は「主体性を育む産学連携授業」としてFuture Skills Project 研究会の産学連携の講座から複数大学に紹介してもらう。No.3は「アクティブ・ラーニングの実践例」とし、教養教育、基礎教育での事例やPBL、TBL、双方向授業などの実践事例を紹介する。No.4は「地域連携による教育」とすることにした。

以上